

1人1台端末環境を基盤とした授業改善

吉備中央町立吉備高原小学校

2025.3.05

岡山県教育委員会
教育情報化推進室**教科書の活用を基盤とした、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実**

児童生徒の主体的な「教科書の活用」については、授業改善の重要なポイントとして、本レポートのNo9・10・11でピックアップしています。現在、文部科学省において、デジタル教科書についての議論が進められており、令和7年2月14日に公開された「[デジタル教科書推進ワーキンググループ中間まとめ](#)」に次のような記述があります。

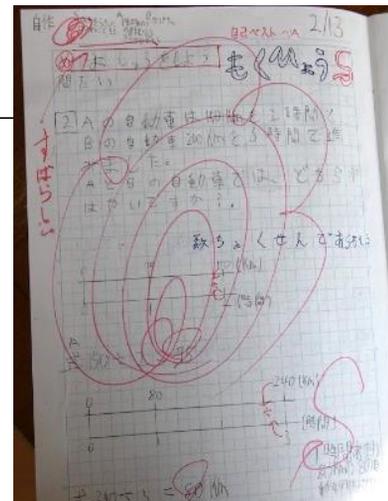
(以上のように) デジタル教科書の活用が進むことで、児童生徒が個別に学習する場面において、児童生徒が間違いを恐れずデジタル教科書に何度も書き込みをしたり、図形やグラフを動かしたりして試行錯誤しながら考えたり、自分の理解度やペースに合わせて自己調整しながら発音を繰り返し聞いて確認したりするといった「個別最適な学び」や、そのようにして整理・可視化した考えを瞬時に共有し、他者の考えと比較し、多角的に考え、伝え合うなど「協働的な学び」の姿が多く見られるようになった。(P11)

この記述から、一人で教科書に書き込みながら学ぶことは、「個別最適な学び」の充実のポイントであることがわかります。デジタル教科書であれば、より書き込みがしやすい場面もあると考えられますが、**本質は「教科書に書き込みながら読み取る」学び方**であり、紙の教科書でも不可能ではありません。

吉備中央町立吉備高原小学校5年生は、児童が教科書や端末を活用し、「自ら学習を調整」しながら学習に取り組んでいます。取材した算数「速さ」の授業では、次の3点が主な授業改善のポイントでした。

- ① GoogleClassroomに示されたループブック（基準はB・A・S）を参照し、児童自ら目標を設定する
- ② 主に個別で教科書を活用しながら、B・A基準の課題に取り組む
- ③ S基準の課題の表し方は、端末かノートか自分で選択して取り組む

特筆すべきは②で、B・A基準の課題は、個別で紙の教科書に書き込みながら学ぶことが大切にされていて、学習状況に応じて友達と協働したり、先生と学んだりします。各々にまずは一人でやってみようとする力強い姿があり、**学習に受け身になっている児童はいません**。右の写真(上)のように、例題について題意を読み取り、数直線図を使って立式の根拠を理解し、計算をして穴埋め箇所を解答します。その過程で、**問題の大事な所に線を引く、数直線図に考えを書き込むなどの工夫**が見られます。これはテスト等でも応用できることが望ましい方法で、学力向上にもつながると考えられます。また更に、「個別最適な学び」の充実を図るためには、上記波線部のような「協働的な学び」の充実が欠かせません。話し合いだけでなく、各々の学びの跡が残る教科書をカメラで撮影してクラウドで共有し「他者参照」が習慣になると、**解き方のコツや学び方を自ら学び取ることもできるようになる**でしょう。



右の写真(下)は本学級児童の自主学習ノートで、自ら目標基準を設定し「予習」に取り組んでいます。このような姿は「自ら学習を調整する」経験を重ねることで現れてくる「自立した学習者」の一端でしょう。